

小田原ガイド協会だより

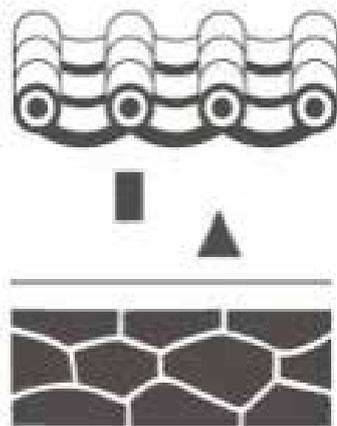
令和2年6月1日発行（夏号・季刊）

NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒250-0014)

TEL.0465-22-8800 / FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>



【巻頭所感】

新年度会長就任挨拶

堀池 衡太郎

今年度で会長三期目に突入になります。

また役員改選の年で、規程に従い「役員の定年制」を採用した最初の選挙です。年齢による体力の個人差はどの様な団体でも線引きをすることは難しい問題で、単に年代で仕切る方法は、体力があり優秀な人材の活動する場を少なくしたのではと考えました。が、他方実際に年齢を重ねた私自身「役職の踏襲」は「老害」が生じると考え規程を策定し、今年度の役員選挙を迎えました。役員定年制の改革をした結果、協会内では若手と言われる年代の五名の理事役員が誕生しました。監査役員は年代でなく経験値を重視し、年齢枠を省いた規程に従い理事を監査する観点で監事役員を「役員推薦委員会」の方々が推薦し就任されました。

ので、皆様方の暖かいご協力をお願いします。

平成三〇年度の事業案、とり「一步前に出る」の事業案は協会初めての出先機関が市経済部観光課の協力の下、早川臨時観光案内所を開設したことで、小田原市の観光の形が見えてきたと考えます。最初の規模や施設は小さく出発し、二年目以降は新しい人材の起用、改革で手・足を徐々に延ばし存在感を表現することに向かいますが、先ずは訪れた観光客の方々に「心のお土産」を持って帰って頂けるようにソフト面・インフラの構築、例えば「手荷物預かり業務」を始めたのもその一つですし、インカムの常備もその一環です。

早川臨時観光案内所は、小田原市西部地区の観光拠点に拡大し成長する充分な要素と

素材があるところなので、後は料理の仕方でも味わいに変化が出ます。

歴史・史跡や「小田原人の矜持」を大切にしている民間企業とタイアップし新しい形の活動を考えています。また企業と個の商店をリンクして循環させる仕組みを何処まで創出可能か判りませんがスタートの年と考えています。

令和元年度の梅祭りの入込客数は前年四万人割れで東部地区の観光は残念ながら沈滞傾向です。活性化、文化財の保存（耐震性改装も含め）から活用化のお手伝いは私達協会の使命と考えています。

小田原の文化財は保存から活用の時代のステージに入っているかと確信をしています。また今盛んに提唱されているSDGsについてはご承知のように（Sustainable Development Goals）未来都市計画（持続可能な開発目標）はすでに協会は発足当初から実施しているわけで、私達の趣旨書の内容を粛々と実行し

次世代にそのまま継承していけば満足のゆく「SDGs」になります。実現可能で実施・継続し目標は二〇三〇年である協会は「未来永劫」継承されることは手が届く目標です。それこそ自然に「協会の暖簾」が出来ます。

私達の協会は、たくさんの方の活動があります。それは「協会は何をしてくれるかではなく、これから何が出来るか？」ユックリとノンビリ自分のペースで百歳その先の協会の姿を見て元氣よく進みましょう。今だからきつと出来ます。

最後に、今のガイド協会事務所の立地条件を冷静に考えて見て下さい。小田原市の観光ガイドとして城内に事務所をお借り出来ていることは、恵まれていて感謝の至りです。これ程の立地条件の良い場所は、小田原市で探してもありません。先人の尽力延長線上で活動が成り立っていることを考え、日頃の活動が出来ること感謝をして励んで頂きたいと考えます。

◆企画ガイド◆

早春の

矢倉沢往還を体感

大淵 敬三

二月二十三日、小田急線渋沢駅の南口、定刻より少し早くお客さまと共に出発しました。春を実感させる空気のなか、矢倉沢往還の篠窪ルートをと

どり、松田町の神山から町屋を通って新松田駅までガイドをさせていただきました。喜叟寺・濫澤神社を過ぎ、舗装された県道に別れを告げると渋沢丘陵までは急な登り坂、途中眺めの良いビューポイントで丹沢を見ながら最初の休憩。

そびえ立つ大山を眺めながら、主な大山道や雨降山大山寺・大山阿夫利神社などを

説明してから、もうひと頑張りの急な登り坂を経てようやく渋沢丘陵の上へ。しばらくは平坦な道。のどかな里山の風景に包まれて、今度はなだらかな下りとなりました。

篠窪までは、神奈川古道五十選に選ばれている細い道を下って行きま

りゆっくり。再び車道に戻り、しばらくすると道端には微笑ましい「上屋の道祖神」が迎えてくれました。



微笑ましい「上屋の道祖神」

地福寺を過ぎると昼食をとる富士見塚まではまた登り。昼食後は、長い下り坂で松田町へ。御殿場線の町屋踏切付近からは、松田山の河津桜や菜の花がよく見え、お客さまも春を満喫していただけたかと思えます。

心配していた天気もまずまずで丹沢の山々、富士山、箱根さらには伊豆半島まで見渡せる好条件となり、そして何よりもお客さまの笑顔に助けられて気持ちよくご案内することができました。お客さまに感謝。

◆企画ガイド◆

曾我の梅まつりに

参加して

神田 耕治

〈宗我神社

曾我村役場

梅の中〉

高浜 虚子

昭和一二年二月の句です。

約三万五千本の梅の花の香りが、このあたり一面に漂っています。約八十三年前の句が新鮮に感じます。

西相模の下曾我の地には、今年も春が訪れ、梅まつりが開催されました。小田原ガイド協会も例年通り参加です。二月二日～三月一日までの土日祝日、電車でお越しのお客様に下曾我の地の故事来歴をご案内しながら梅のお花を愛でるガイドです。今年は暖冬のため、梅の花の開花も早く小田原の品種「十郎」も見事に咲き誇っています。

私は「流鏝馬」が行なわれた十一日が当番日でした。朝

から多くのお客様が駅を降り大忙しです。

同僚が順次ガイドに出発しいよいよ私の番が来ました。お客様は十名ほどで比較的若い方々でした。宗我神社、城前寺をご案内。ここで「曾我物語」に軽く触れた後は眼前の景色を楽しんでいただきました。雪をかぶった富士山・箱根連山の絶景にはお客様も大感激です。

太宰治「斜陽」ゆかりの雄

別所梅林出口より富士山を望む



山荘跡をご案内した後、地元名産品の売店へ立ち寄り、流鏝馬会場の原梅林に向かいました。

主催者の発表によれば、前半の来場者は前年を上回った

この冬に、西伊豆・三津浜の老舗「安田屋旅館」に泊まった。沼津港から車で二〇分くらい、駿河湾沿いにあるこの旅館は、太宰治ゆかりの宿だ。

太宰は、下曾我にある愛人太田静子の疎開先であった「雄山荘」を訪れると、彼女の日記を借り、そのまま伊豆に向かい、この旅館に閉じてもって小説「斜陽」を書き上げた。

廊下がミシミシ音を立てそうなの古い旅館に上がりこむと意外なことに気づく。若い客でいっぱいなのだ。ロビーなどにカジュアルな服装

の男女がたむろしている。この日も、これらの旅客で満室だという。太宰は死後七〇年たった現在でも若者に人気があるのかと驚いた…だが…

みみずく 木菟のささやき

ものの、後半は新型コロナの影響で著しく減少したとか。最終日、事前に設置した案内板を実行委員で片付け、今年の梅まつりは終了しました。

見ると玄関わきに大きなパネルがあり、そこにアニメ風の絵が描かれている。



ロビーにあったパネル

この旅館は人気アニメ番組「ラブライブ」の登場人物の実家として設定されているらしい。彼らはその熱狂的なファンであり、聖地巡礼としてここに投宿しているのだ。

宿の狭い露天風呂では、くつろいだ若い男性たちが多数、裸で情報交換をしている。そこに老醜の裸体をさらすには少し気が引け、ひとり淋しく内湯に浸かった。

翌日まわった沼津市内にはいたるところにそのパネル写真があり、若い男女の客が群がっていた。あらためて、アニメ恐るべし！

(丁)

新しい5名の仲間を紹介します

福田 忠（ふくだただし） / 1班

- ① ジョギング／相撲・プロ野球他スポーツ観戦／読書
- ② 小田原の魅力をわかりやすく、ていねいに、面白おかしく案内できるガイドを目指したい。

① 趣味・特技 ② 抱負

多田 基安（ただもとやす） / 2班

- ① 全国城巡り／高校・大学野球観戦
- ② 楽しい、喜ばれるガイドを目指して、知識、技術、話術などの習得にこつこつと、かつマイペースで勤めたい。

畠山 義彦（はたけやま よしひこ） / 3班

- ① バードウォッチング／マジック／ドローン操縦
- ② 小田原を訪れる外国人の方々に、英語で小田原の歴史・文化を紹介できるようになりたいと思います。



鈴木 夏実（すずきなつみ） / 2班

- ① 小田原散策と（iPhoneで）写真撮影すること
- ② 研修や実習のたびに小田原の発見があり、歴史を学ぶ事の楽しさを知ることができたのでそれを継続したいです。

畠山 洋子（はたけやま ようこ） / 4班

- ① ウクレレ
- ② 「城のある地域に住んでいるのに知らないのは残念」が入会動機です。他の城も見学し城の魅力を発見していきたい。

① 趣味・特技 ② 抱負

富士がいつでも
眺められる 曾我の里

第四回語り手 近藤 義栄

■近藤さんが小田原にいらしたの、いつですか？

昭和四一年かな。生まれは新潟です。会社が小田原の巡礼街道に工場を造ってその時に来ました。巡礼街道沿いは殆ど何も無い砂利道でした。最初は成田にあった独身寮に入り、結婚してから、下曾我に住むことになりました。

■その頃の下曾我は、どんなでしたか？

すごい田舎に來ちゃったなあって感じで。何しろ御殿場線に蒸気機関車が走っていましたが。昭和四三年には電化されましたけど。

富士山が毎日見えるってのが驚きでした。

私は朝晩居るだけで後は会社ですから、春になると梅林がきれいだなと思うくらい

で、あまり地元のことには気がしなかった。曾我兄弟の史跡があるなんてこともよくは知りませんでした。下曾我について調べ始めたのは定年後ですよ。

また、下曾我に早く慣れるためにPTA役員を受けたり、その後、自治会、老人会等の役も受け活動してきました。

■シルバー大学で学びはじめてからですか？

そうですね。小田原に住むんだったら、もつと小田原や下曾我のことを知りたいと思って。シルバー大学の七期生です。いろいろ調べると面白くなって：でも、卒業しても最初はガイド協会に入る気はなかつたんですよ。説明会にもいかなかった。しばらくして、ん？やっぱ入り入ろうかなって感じで：

その後、地元の遺跡保存会などにも入って活動しました。意外と地元の人が下曾我のことを知らない。外から来た人の方が、熱心に好奇心をもつて勉強しますね。それと女性陣が頑張ってますね。

下曾我は昔から教育も熱心だった。寺や神社の人たちが学舎を造ったりして教えてき

ました。私見ですけど、きつと「御府内」に対抗しようという気持ちが強かったのでしょうね。

■下曾我は、お祭りの多いところですね。

梅まつり、傘焼きまつり、宗我神社の大祭など、昔からのお祭りが残ってますね。また、流鏝馬などの伝統的な芸能行事もあります。ただ、次第に参加者の数が減ってきて、それとともに助成金も削られて：

傘焼きまつりも、規模が縮小されています。昔は大相撲の曙や武蔵丸、寺尾や高見盛などの人気力士や、歌舞伎役者の市川右近さん、中村獅童さんなども呼べただけけど、今は、経費削減で無理ですね。



曾我兄弟の故事を伝える 傘焼きまつり

獅童さんが来た時は大盛況でした。

梅まつりの来場者も少なくなっている。食べるどころとか、トイレが簡易式のものしかないとか、いろいろ問題もありませんが……

■近藤さんは手造り甲冑隊としても活躍していらっしやいますか？

これも、シルバー大学の七期生の有志で、段ボールで甲冑を造り始めました。北条五代祭りに参加し、さらに、創作甲冑仕舞「北条」を練習し、各地の祭りにも参加しています。今は高齢化が進んで仲間も減りました。ガイド協会の若手の人にも手伝ってもらえると嬉しいんだけど。(笑)

■下曾我で一番好きな場所は？

宗我神社とか、天津神社かな。……心が落ち着きます。それと丘陵からの景色もいいですね。夕焼けに富士山が見えたりして……。

下曾我は、気候もいいし、富士山が見え、春は梅がきれいです。それに郷土愛が強い。今後も、皆で下曾我地区を盛り立ててほしいと思います。

(文責：編集部)

富士の冷気が
茶の風味を増す

岡田秀昭

小田原城の藤棚のそばに、お茶壺橋がある。

そばの案内板には「江戸時代に、江戸城から京都・宇治へ献上茶を買うため、お金の入ったお茶壺を乗せた駕籠を数台で行列を組んで東海道を道中した……」などと説明されている。

そのお茶壺を置くために、小田原城内に入母屋の屋根をもつ蔵が建てられ、その場所はお茶壺曲輪と呼ばれた。

お茶壺道中が始まったのは慶長十八年（一六一三）とされる。制度化されるのは寛永一〇年（一六三三）のこと。

徳川家光が將軍の時代だ。江戸時代、將軍御用達のお茶は宇治茶だった。毎年四月下旬か五月上旬になると、宇治から茶葉の生育状況の報告が届く。それを受け、宇治採

茶使が江戸を出発し、東海道を通って宇治に向かう。

責任者は徒歩頭（かちがしら）と呼ばれ、輪番で務めた。茶道頭や茶坊主、警備の役人など、多い時には千人に膨れ上がる大行列になった。百個以上の空の茶壺が江戸を出て東海道を運ばれたというから、かなり壮観なものだったろう。

將軍が飲み、徳川家祖廟に献上するお茶だから、五摂家や宮門跡の行列に準じる権威があつた。道中が通行する際には、御三家の大名すらも駕籠を降りなければならなかつたという。街道沿いの田畑の耕作も禁じられたほどで、自然発生的に出来た歌が、「ずいずいづつころばし」であることは、よく知られた話だ。

宇治では最高級の茶葉が集められ、到着してから九日目より茶道頭立ち合いのもとで茶詰めが始まる。

まず壺に安い茶葉を入れる。それから極上の葉を十匁（もんめ）ずつ二十ほどの袋に分けて詰める。そして揺すぶりながら隙間に安い茶葉を入れていく。こうすることで、

安い茶葉が防湿とクッションの役割を果たすという。

茶道頭により、茶壺が封印され、羽二重で包み、さらにその上を綿入れの帛紗（ふくさ）で包む。そして鍵付きの外箱に収められ、詳細が書かれた御茶入日記がそえられた。將軍の飲むものなので細心の注意が払われていた。

復路は中山道・甲州街道を通つた。その理由は、東海道の海風による湿気を防ぐためだが、夏の暑さ対策でもあつた。

山側の街道を通つたお茶壺は、途中、甲斐の谷村（現・都留市）の近くにある勝山城に寄り、夏が過ぎるまで、その何割かを茶壺蔵に保管した。

お茶は、涼しいところに貯蔵すれば熟成され、香・味がより深まり、さらには富士山の神秘的な冷気が風味を増すと信じられていたのだ。

この宇治への御茶壺道中が始まる前、江戸時代初期に、そのルーツというべき、もうひとつのお茶壺道中があつた。それは、駿河（静岡）のお茶を、駿府城に隠居していた大御所徳川家康のもとに運

ぶ道中だ。家康は身体を気づかい、薬草や漢方薬を愛用していた。もちろんお茶にもこだわりがある。

八十八夜の頃に摘んだ美味しい新茶をお茶壺に詰め、近くの冷涼な大日峠（標高千二百メートル）のお茶壺屋敷に保管・熟成させ、秋になると駿府城へと運ばせた。これも、茶葉は、涼しいところに貯蔵しておく香・味が一層深まるとの考えからだ。

毎年、都留市や静岡市など各地で、このお茶壺道中を再現した観光行事が行われている。



毎年6月に行われる中山道奈良井宿のお茶壺道中

足袋の町―行田―
の誇り「忍城」

高杉昭廣



再建された忍城御三階櫓

平成二二年三月、埼玉、群馬、栃木三県を巡るガイド協会の研修旅行に参加し、鉢形城・沼田城・名胡桃城・唐沢山城・忍城の五つの城を見学した。それぞれに思い出がある中で、旅の締めくくりに訪れた「忍城」を選びました。

忍城へと向かっていったそのとき、予想外の交通渋滞があり、予定の時刻（十六時）に到着できず、入場最終ぎりぎりになってしまった。本丸跡に建つ郷土博物館をざっと見るのが精一杯であった。その中で展示室で見た江戸時代の忍城の復元模型が印象に残っている。再度訪ねたいと思いがながら忍城を後にした。

この模型は、水攻めで傷んだ城を天正一八年（一五九〇）松平家忠が修復した後、寛永一六年（一六三九）から九代にわたり忍城主であった阿部氏が約六十年をかけて大改修を行った後の忍城の姿を復元作成したものである。

その後、機会があり再び忍城を訪ねた。水の城、忍の浮城といわれた忍城は、江戸城の北の守りとして明治維新まで続いたが、明治六年（一八七三）に取り壊され、沼も埋められわずかに土塁の一部を残すのみとなった。博物館の展望台から丸墓山（石田三成本陣）を望むと当時の緊張感が伝わってくる気がしたそんな城旅でした。

城めぐり研修旅行

令和2年1月15日（水）

掛川の三城：高天神城址 → 横須賀城址 → 掛川城 の順番で



◀横須賀城址

▲横須賀城址模型

▼掛川城を背景に…



◀高天神城跡堀切



《編集後記》

新型コロナウイルスで、真っ黒だったスケジュール帳が真っ白になりステイホームで草むしりに勤しみ、例年になく綺麗な我が家の庭に、桃の花が咲き、ツツジが咲き、芝生が緑になりと人の事情に関係なく自然は営まれ、冬眠から目覚めたトカゲを、猫が嬉々として捕まえて来る季節になりました。（毎回悲鳴をあげています）

今号を発行するにあたり委員達でオンライン会議なるものを実施しました。また初めてカラー印刷も試みました。写真が綺麗になったでしょう？誌面の構成・デザイン等皆様のご意見をお聞かせ下さい。（知）

三月以降の退会者

岡田秀昭さん

ありがとうございました。

編集委員／磯崎知可子（委員長）

戸田博史 中村哲夫

宮澤周子 上田信一